

第9期 第2四半期報告書

(平成14年10月1日から平成14年12月31日まで)



平成15年2月10日

株式会社 旅籠屋

会社名(定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名(英文商号)	Hatagoya & Company
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿3丁目3番4号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

四半期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年 同期比 (注2)	前年度
		第2四半期 H13.10.1～ H13.12.31	第3四半期 H14.1.1～ H14.3.31	第4四半期 H14.4.1～ H14.6.30	第1四半期 H14.7.1～ H14.9.30	第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	累計 H14.7.1～ H14.12.31		前年度 同期累計 H13.7.1～ H13.12.31
営業収益									
売上高		32,785	33,044	33,036	61,739	38,001	99,741	+34.9%	77,658
営業費用									
売上原価		35,699	28,851	32,525	38,685	39,237	77,923	+28.0%	63,918
販売費及び一般管理費		12,476	9,249	10,651	9,765	8,816	18,581	14.7%	23,197
営業損益		15,390	5,056	10,140	13,288	10,052	3,235		9,458
営業外収益		9	7	39	5	229	234		466
営業外費用		2,290	2,262	2,584	1,739	1,642	3,381		4,522
経常損益		17,671	7,311	12,685	11,554	11,465	88		13,513
特別利益		-	-	-	-	-	-		-
特別損失		-	-	-	-	-	-		-
税引前四半期(当期)損益		17,673	7,311	12,685	11,554	11,465	88		13,513
法人税、住民税及び事業税		-	-	932	-	-	-		-
四半期(当期)損益		17,673	7,311	13,617	11,554	11,465	88		13,513
前四半期繰越損益		99,275	116,947	124,258	137,875	126,321	137,875		103,273
四半期(当期)未処分損益		116,947	124,258	137,875	126,321	137,787	137,787		116,947

期中平均発行済株式総数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	-	5,620株
1株当たり当期損益	3,144円	1,300円	2,422円	2,056円	2,040円	15円	-	2,432円
潜在株式調整後 1株当たり当期損益	(注1)	(注1)	(注1)	1,910円	(注1)	14円	-	-

(注1) 潜在株式調整後の1株あたりの当期損益は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

(注2) 当期より消費税等については税抜処理に会計方針を変更しているため、補正した上での比率を算出しております。

(2) 部門別売上高 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年 同期比 (注2)	前年度
		第2四半期 H13.10.1～ H13.12.31	第3四半期 H14.1.1～ H14.3.31	第4四半期 H14.4.1～ H14.6.30	第1四半期 H14.7.1～ H14.9.30	第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	累計 H14.7.1～ H14.12.31		前年度 同期累計 H13.7.1～ H13.12.31
本社		536	2,371	376	479	354	834	17.4%	1,047
鬼怒川店		9,533	7,123	8,033	14,538	8,790	23,328	0.7%	24,653
那須店		5,108	4,895	5,568	10,113	4,886	14,999	0.3%	15,795
秋田六郷店		3,727	2,423	3,482	5,483	3,302	8,785	7.6%	9,984
山中湖店		5,304	5,221	5,599	11,501	7,044	18,546	+53.7%	12,668
沼田店		5,953	6,904	5,557	7,854	6,810	14,664	+41.6%	10,877
水戸大洗店		2,620	4,103	4,419	8,618	4,761	13,380	+433.8%	2,632
北上店		-	-	-	3,150	2,051	5,201	-	-
合計		32,785	33,044	33,036	61,739	38,001	99,741	+34.9%	77,658

(注2) 当期より消費税等については税抜処理に会計方針を変更しているため、補正した上での比率を算出しております。

(3) 部門別経常損益 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	前年度	前年度	前年度	今年度	今年度	今年度	前年 同期比 (差額)	前年度
		第2四半期 H13.10.1～ H13.12.31	第3四半期 H14.1.1～ H14.3.31	第4四半期 H14.4.1～ H14.6.30	第1四半期 H14.7.1～ H14.9.30	第2四半期 H14.10.1～ H14.12.31	累計 H14.7.1～ H14.12.31		前年度 同期累計 H13.7.1～ H13.12.31
本社		13,173	8,072	11,702	9,960	8,936	18,897	+5,189	24,086
鬼怒川店		771	894	463	6,413	830	7,243	532	7,775
那須店		722	503	331	4,982	448	4,547	536	5,083
秋田六郷店		1,448	1,628	1,283	1,089	1,434	344	826	482
山中湖店		549	421	259	5,675	566	6,234	+4,629	1,605
沼田店		50	1,659	17	2,177	1,226	3,403	+3,509	106
水戸大洗店		2,599	900	634	3,422	724	2,697	+6,965	4,268
北上店		-	187	102	2,244	2,545	4,796	4,796	-
合計		17,671	7,311	12,685	11,554	11,465	88	+13,601	13,513

(4) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 前年度 第2四半期末 H13.12.31	前年度 第3四半期末 H14.3.31	前年度 第4四半期末 H14.6.30	今年度 第1四半期末 H14.9.30	今年度 第2四半期末 H14.12.31
(資産の部)					
流動資産					
現金預金	22,048	7,029	15,400	16,325	10,726
その他	394	135	1,069	1,578	963
流動資産合計	22,443	7,165	16,470	17,903	11,689
固定資産					
有形固定資産合計	413,218	411,622	405,407	406,726	401,410
無形固定資産合計	3,467	3,423	2,964	2,804	2,644
投資等	10,936	13,915	13,798	13,689	13,590
固定資産合計	427,622	428,961	422,170	423,220	417,645
繰延資産	2,168	1,268	369	277	184
資産合計	452,234	437,395	439,010	441,401	429,520
(負債の部)					
流動負債	24,490	22,936	31,910	30,587	35,311
固定負債	244,491	238,518	244,775	236,934	231,795
負債合計	268,981	261,453	276,685	267,522	267,107
(資本の部)					
資本金	281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
(資本準備金)	19,200	19,200	19,200	-	-
(剰余金)					
(当期末処分損益)	116,947	124,258	137,875	-	-
(うち当四半期損益)	(13,673)	(20,984)	(34,601)	(-)	(-)
資本剰余金					
資本準備金	-	-	-	19,200	19,200
利益剰余金					
四半期(当期)未処分損益	-	-	-	126,321	137,787
(うち四半期(当期)損益)	(-)	(-)	(-)	(11,554)	(11,465)
資本合計	183,250	175,938	162,324	173,878	162,412
負債資本合計	452,231	437,393	439,010	441,401	429,520
発行済株式総数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株
1株当たり純資産	32,606円	31,305円	28,883円	30,939円	28,899円

(5) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第四経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法	各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1に該当する金額を計上しております。
繰延資産の処理方法	各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の4分の1に該当する金額を計上しております。
経過勘定項目	未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。
税金の計上基準	法人税、住民税および事業税は、既支払額を計上しております。
消費税等の会計処理	消費税等については従来税込処理によっておりましたが、当期から税抜処理に変更しております。仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しております。

なお、当該四半期の貸借対照表および損益計算書については、公認会計士の監査を受けておりません。

第9期上四半期（平成14年7月1日～平成14年12月31日）の業績の概況

(1) 本社

新規出店の成約が遅れ企画調整費を計上できないため、上半期累計で売上高は前年同期に比べ17.4%と減少しておりますが、人件費を含む経費の削減と新株発行償却費の大幅減により経常損失は5,189千円と大きく改善されております。

(2) 鬼怒川店

第1四半期は前年比微増となっていましたが、第2四半期は前年を下回り、上半期（7～12月）累計で、稼働率（64.5→63.3%）売上高（-0.7%）経常利益（-532千円）とも微減となりました。ただし、前年度は下半期（1～6月）がきわめて低調だったことから、通期では前年度を上回り、売上高・経常利益とも過去最高を実現したいと計画しております。

(3) 那須店

オープン（2000.4）3年目に入って利用者が伸び悩んでおり、上半期累計で、稼働率が4.2ポイント（64.9→60.7%）前年同期を下回る結果となりましたが、ファミリー客の割合が増えて客室単価が上昇したため、売上高（+0.3%）および経常利益（+536千円）は微減にとどまっております。リピーターの増加と広告宣伝による利用者の減少が顕著なため、「鬼怒川店」とあわせ、パブリシティや広告掲載などを行い新規顧客の開拓を図りたいと考えております。

(4) 秋田六郷店

「那須店」と同様、今年度は低調で、上半期累計で、稼働率（52.3→48.6%）売上高（-7.6%）経常利益（-826千円）とも大幅に前年同期を下回っております。周辺PRなどを強化しておりますので、下半期には業績の回復を図り、当初の計画通り店舗単独での通期黒字化を達成したいと考えております。

(5) 山中湖店

オープン（2001.7）2年目に入って大幅に利用者が増えており、上半期累計で、稼働率（47.2→72.6%）売上高（+53.7%）経常利益（+4,629千円）とも大幅に前年同期を上回っております。

(6) 沼田店

「山中湖店」同様、きわめて好調で、上半期累計で、稼働率（62.1→78.8%）売上高（+41.6%）経常利益（+3,509千円）とも大幅に前年同期を上回っております。

(7) 水戸大洗店

オープン（2001.10）から1年が経過しましたが、着実に利用者が増え、上半期累計で、稼働率（25.8→60.4%）売上高（+433.8%）経常利益（+6,965千円）とも大幅に前年同期を上回っております。リピーターやビジネス客も増加し、稼働率も安定しているため、通期での黒字転換は確実な見通しです。

(8) 北上店

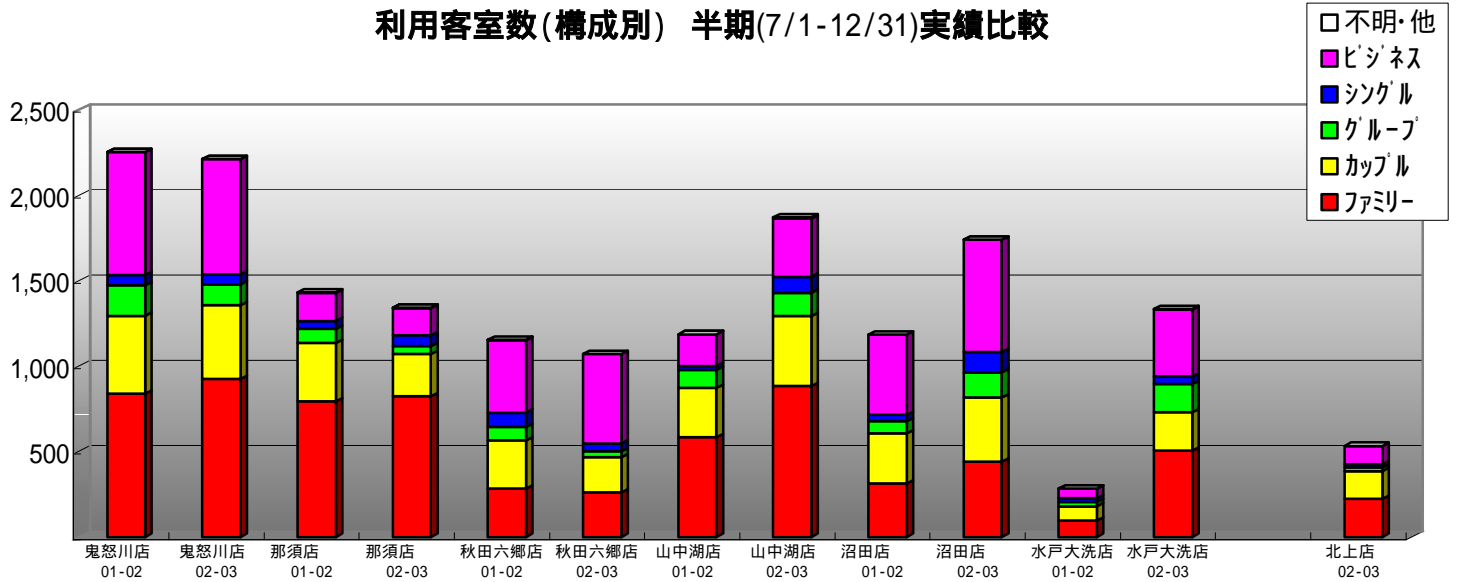
オープンから半年が経過しましたが、上半期累計で稼働率（26.8%）経常利益（-4,796千円）となり、苦戦しております。高速道路SAへのパンフレット配置、周辺PRなどにより認知度の向上を図っておりますが、「秋田六郷店」とあわせ、旅行雑誌への広告掲載も行い、集客増を図る計画です。

(9) 全社

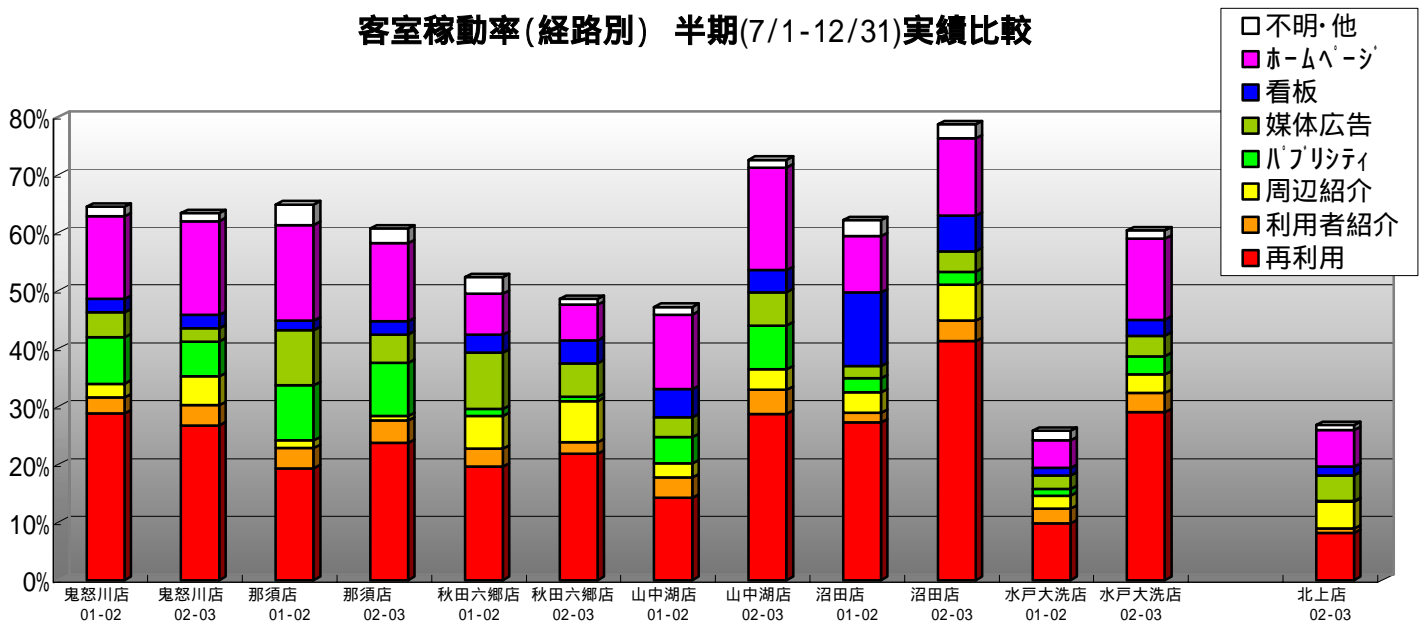
「鬼怒川店」「那須店」「秋田六郷店」の微減と「北上店」の不調を、「山中湖店」「沼田店」「水戸大洗店」の好調がカバーする状況となっております。

この結果、上半期累計で売上高99,741千円（前年同期比+34.9%、消費税調整後）営業利益3,235千円（前年同期は9,458千円）経常利益および当期利益88千円（前年同期は13,513千円）となりました。上半期での黒字計上は会社設立以来初めてのことです。

利用客室数(構成別) 半期(7/1-12/31)実績比較

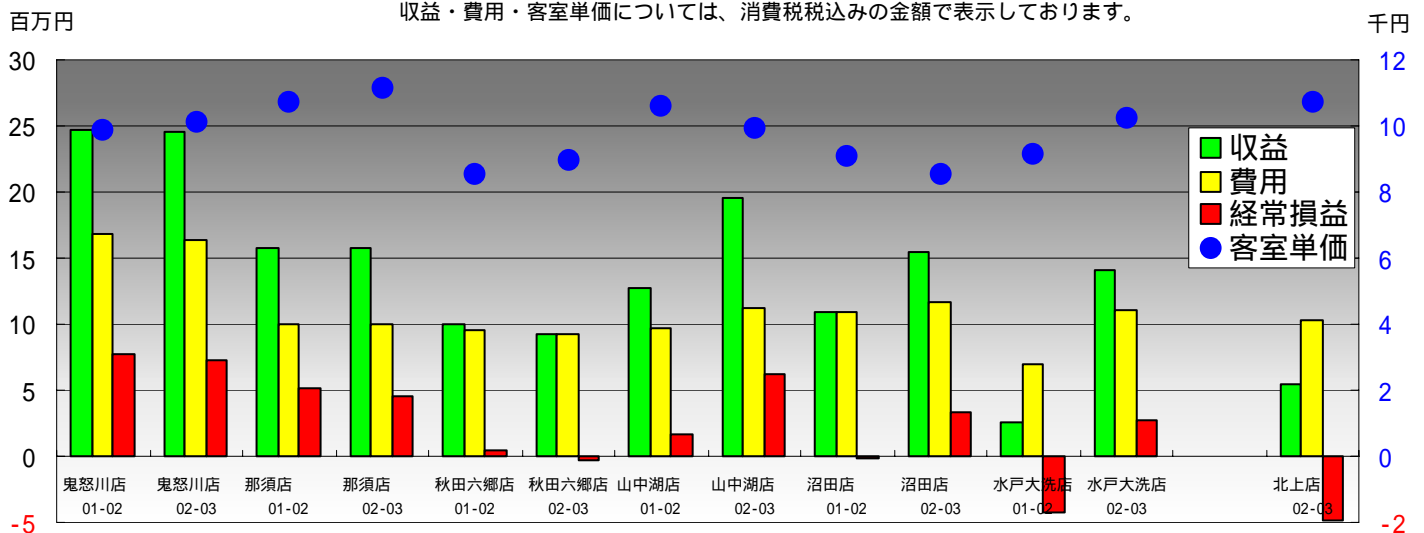


客室稼働率(経路別) 半期(7/1-12/31)実績比較



収益・費用・経常損益・客室単価 半期(7/1-12/31)実績比較

収益・費用・客室単価については、消費税税込みの金額で表示しております。



第9期通期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別 前期実績 (消費税込) H13.7.1～ H14.6.30	当期予想(消費税別)				当期通期 予想
		第1四半期 実績 H14.7.1-9.30	第2四半期 実績 H14.10.1-12.31	第3四半期 予想 H15.1.1-3.31	第4四半期 予想 H15.4.1-6.30	
売上高	143,738	61,739	38,001	40,058	42,596	182,394
営業損益	24,655	13,288	10,052	1,692	2,972	1,428
経常損益	33,509	11,554	11,465	3,442	3,722	7,075

当社にとって、当面の最大の経営目標は通期での黒字転換ですが、新規出店の停滞と「北上店」の低迷などにより、今期における実現は難しい見通しとなっております。ただし、新規出店についていくつかの案件の交渉が進んでいること、周辺PRの強化などにより各店舗の業績の伸びが見込まれることにより、損益均衡に近づけるよう最大限の経営努力を行う所存です。基本的な推移としては、損益状況は前期に比べ大幅に改善され、黒字体質に近づきつつあるといえます。

資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第8期 第3四半期 H14.1.1～3.31	第8期 第4四半期 H14.4.1～6.30	第9期 第1四半期 H14.7.1～9.30	第9期 第2四半期 H14.10.1～12.31
現金および預金の増減額		15,019	+8,371	+924	5,598
現金および預金の期首残高		22,048	7,029	15,400	16,325
現金および預金の四半期末残高		7,029	15,400	16,325	10,726

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別	第8期 第3四半期 H14.1.1～3.31	第8期 第4四半期 H14.4.1～6.30	第9期 第1四半期 H14.7.1～9.30	第9期 第2四半期 H14.10.1～12.31
短期借入金の増減額		-	-	-	-
短期借入金の期首残高		-	-	-	-
短期借入金の四半期末残高		-	-	-	-

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております。1年以内返済予定額を含みます。

なお、1年以内返済予定額については、貸借対照表上では流動負債として表示しております。)

科目	期別	第8期 第3四半期 H14.1.1～3.31	第8期 第4四半期 H14.4.1～6.30	第9期 第1四半期 H14.7.1～9.30	第9期 第2四半期 H14.10.1～12.31
長期借入金の増減額		5,364	+13,526	7,029	2,237
長期借入金の期首残高		257,719	252,355	265,881	258,852
長期借入金の四半期末残高		252,355	265,881	258,852	256,615

借入金の増減は、朝日信用金庫からの運転資金借入れ5,000千円(昨年11月実行、東京信用保証協会保証による制度融資)と約定返済の差額です。

今後の事業展開と出店計画について

新規出店に関する全般的な状況

昨年末、成約直前であった埼玉県内への出店計画が白紙となり、現時点で「北上店」に続く新規出店が決まっておりません。店舗数が10店舗程度に増えれば安定して黒字を計上し、さらに利益を拡大していく条件が整うため、早期に出店計画を確定することは最重要な戦略的課題であり、その実現のため、土地活用企業との業務提携、遊休地の新しい活用方法のPR強化、新しく土地の取得を含めた「オーナー募集」の提案などを開始しております。

幸洋コーポレーションとの業務提携

遊休地活用を考える土地オーナーの情報を増やし、効率よく具体化していくため、昨年11月に(株)幸洋コーポレーションと業務提携契約を締結いたしました。同社は、オーナーから土地・建物を長期一括借り上げ、テナントに転貸(サブリース)する方式で有名な土地活用の大手で、1995年にはジャスダック市場に上場を果たしております。同社のネットワークやチャンネルを活用し、すでに数箇所での交渉が進んでおります。

新しい土地活用法のPR

すでに、日経新聞や土地活用ガイドブックへの広告掲載を行い、反響を得ております。また、近く土地オーナー向けのポータルサイトおよびメールマガジンでの告知も行う予定です。

オーナー募集の開始

新規出店を計画的かつ効率よく実現できない最大の理由は、遊休地オーナーからの引き合いを待つのではあらかじめ出店時期を決められず、立地条件の良い場所を主体的に選定することもできない点にあります。そこで、金融資産の長期安定運用を図る法人・個人を対象に、用地の新規取得+建物の建築費用を負担いただく「オーナー募集」を広く提案することとしました。この場合、任意に出店場所を選ぶことができ、採算性の高い店舗を戦略的に展開していくことが可能になります。1月下旬より当社ウェブサイト上で告知を開始するとともに、資産家向けのDMや個別の打診などを行っており、すでに数件の問い合わせをいただいております。

具体的な出店交渉案件

現在、群馬県内、神奈川県内に各2件、千葉県内に1件の交渉案件があり、今期中には複数の出店契約を完了させたいと考えております。

広告宣伝活動およびPR活動の強化による稼働率のアップ

既にお知らせしたとおり、最近では旅行サイト経由での予約が一般的になっていることから、昨年11月より「旅の窓口」からの予約受付を開始しており、すでに一定数の実績を上げております。さらに、今春からは一部福利厚生施設代行サービス会社との提携もスタートする予定です。また、ネット上での認知を強化するため、各種検索サイトへの有料登録なども行っております。

以上